

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300066		
法人名	社会福祉法人白泉会		
事業所名	グループホームかわばた荘		
所在地	岐阜県加茂郡白川町坂ノ東5467番地1		
自己評価作成日	平成23年7月16日	評価結果市町村受理日	平成23年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300066&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を基本理念とし、地域との交流を大切にし、今までの生活が継続できるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、飛騨川右岸の川端(かわばた)にあり、豊かな自然に恵まれている。利用者は、住み慣れた地域の人々と親しく関わりながら、自分のペースで、おだやかに生活している。母体の特別養護老人ホームは、15年の歴史があり、地域に根差した支援方針は、そのままホーム運営に、受け継がれている。さらに、組織を上げて、質の高い人材育成にも熱心に取り組んでいる。管理者と職員は、利用者の生きがいと誇りを大切にしながら、一人ひとりの思いに寄り添い、あたたかいケアを提供している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活が継続できるよう、多くの方に来所していただき、開かれた施設を目指している。（平成22年7月から平成23年3月の訪問者数1,301名）	地域との交流を大切に、今までの生活を継続できるように「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を理念に掲げている。管理者・職員は、定例会議の場で、理念を確認し、利用者の穏かな暮らしを支えている。	理念は、ホーム内の要所に掲示するために準備を進めている。その実施に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から野菜などをいただいたり、朴葉餅を作った時にはおすそわけに行ったりしている。	地域の人々（ボランティアを含む）が連日訪れ、利用者と一緒に食事をしたり、話し合い手になっている。利用者も、老人クラブや俳句の会に出かけている。地域の人を対象に、認知症サポーターの養成も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族をはじめ、地域の方やボランティアの方にも認知症のことを説明し、理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出（買い物や散歩）や畑仕事の継続などの実践を報告し、一層の取り組みに努めている。	会議は、開設後、4回開催し、行政・地域包括支援センター・社会福祉協議会・地域の役職者・利用者・家族が参加している。事業報告と防災訓練や地域で支えるための認知症の理解を話し合っている。会議で協議した事項は、地域と連携した取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者に聞いたり、運営推進会議を通じて、協力関係を築いている。	町の担当者とは、運営推進会議の中で、協力関係を築いている。介護認定の軽度判定者の扱いを相談したり、利用者の入退院や事故等は、その都度報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防の施設内研修に参加し、身体拘束について理解し、予防に努めている。ただし、現在周辺症状により外出される方がいるので、職員数が少ない時には、時間を限って施錠することがある。	すべての職員は、身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないように努めている。近くに国道があるため、時間を限定して施錠している。家族には、安全上の事情を説明し、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の施設内研修に参加し、虐待について理解し、防止に努めている。内出血があった場合には、報告するようにし、言葉使いにも注意するようにしている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、制度について学ぶ機会を設けている。成年後見制度については、現在は家族がある方ばかりなので、今後は制度の研修を行っていく予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取って説明している。利用者や家族の方も納得してみえ、不安や疑問があった場合には説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方からの要望があった場合は、全職員に伝達をし、職員会議等で話し合い、実践に反映している。(モップ掛けや日用品を自分で買いに行くなど)	家族の訪問や電話、手紙などで、意見・要望を把握している。「本人のできることはやらせてほしい」との要望がある。また、遠方の家族からは、適切なケアに感謝の手紙が届いている。意見・要望は、利用者が自己決定ができるように反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議においては、各職員の意見や提案を出し合い、事業に反映するようにしている。また、日々の取り組みの中での意見や提案も言いやすい雰囲気を作り、すぐに対応できることは反映するようにしている。	職員は、毎月の定例会議で、意見や提案を述べている。利用者個々の状態や気づき、職員の体調管理等が検討され、できるものから改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や労働時間等は社会福祉法人白泉会で統一されている。体調不良の職員の勤務状況にも配慮している。年度末の会議において目標や反省等を出し、向上心を持って働くことができるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修への参加や、職員会議や日々の実践の中で意思疎通を図り、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津川市の施設と交流を持ち、情報収集に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や来所していただいた際に、本人の思いを伺い、少しでも受け入れていけるよう努力している。(食器や箸を自前の物を使用したり、コールの使い方への張り紙など)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、事前面接や来所していただいた際に、思いを伺い、少しでも受け入れていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初は暫定的であるが、得た情報を基にケアプランを作成し、少しでも早く生活に馴染めるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす姿勢を大切にして、できることをやっていたいた時にはお礼を伝え、介護する面ではさり気無い介護をするよう心掛けている。お茶揉みや朴葉寿司作りなどでは、職員が教わるがあった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし、電話や手紙、来所時には最近の様子等を連絡している。また、夏まつりや敬老会等の行事には家族を招いて、共に支えていく関係を築いている。宿泊をされた家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には今後につながるよう働き掛け、特養へ出向き、知人に出会える機会を多くもつようにしているが、もっと積極的に進めていきたい。	近所の友人・知人、趣味や信仰仲間の訪問があり、ゆっくり食事をして過ごしてもらっている。母体の特別養護老人ホームに出向き、知人に出会える機会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、生活の場面や娯楽の場面等において関わりが持てるよう配慮している。帰宅願望の強い方に声を掛けてくださったり、身体的に不自由な方の援助をしてくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当ケアマネジャーとの連絡を密にし、本人や介護者の支援をしていくようにした。入院中にはお見舞いに行き、家族にも状態を聞くよう努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や外出(草取り等)など、入居者や家族の思いや希望を伺いながら支援している。	利用者と会話の中で、思いや意向を把握している。意思をうまく表現できない人は、観察・傾聴しながら汲み取っている。草取りなどの屋外作業に熱中する人には、気温や体調に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用が始まる前に、本人や家族から生活歴を伺い、生活に反映できるようにしている。面会のある度に、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	就寝状況の伝達、行動の見守り、身体状況の把握に努め、日々の変化に気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に様子等を連絡しながら、それぞれの思いを伺い、意に沿う介護計画を作成している。	職員会議で、本人の課題を出し合い、利用者・家族と相談して介護計画を作成している。遠方の家族には、電話や手紙で、要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の様子を記録し、職員間で情報を共有するようにしている。職員会議等において確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族への助言をはじめ、他のサービス事業所の紹介などを行っている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察に状況を伝えたり、訪問をしてもらっている。ボランティアの方に散髪や話し相手となってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にはかかりつけ医の変更の希望を確認している。必要に応じて眼科、整形外科、歯科受診対応をしている。受診対応は業務内に職員が対応している。	家族の希望を確認し、かかりつけ医を、協力病院（ホームの理事長が運営）に変更している。病院は近いので、毎月1回、定期受診に職員が付き添い、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。必要に応じて、同法人の特養看護師と連携が取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはこまめに面会に行き、早期退院できるよう病院関係者との情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り介護の話をしている。	契約時に、重度化・終末期の方針について、家族と話し合いをしている。入院を含め、常時医療行為が必要な場合が、ホームでのケアの限界としている。	重度化・終末期の対応方針を、文書で明確に示すことを検討されたい。また、状態の変化に応じて、段階的に関係者と話し合い、方針を共有することも考慮されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修（実技を含む）に参加し、応急手当や初期対応の訓練の実践力を身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。夜間一人体制時の連絡方法の確認を定期的に行っている。近隣に応援要請の依頼をしている。	年に2回、消防署の指導で、防災訓練を行っている。夜間を想定した避難誘導、連絡網の確認等を実施している。母体の特別養護老人ホームへ直通電話で連絡が取れるようになっており、近隣住民からも協力が得られるように話し合いができています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の介護の仕方を常に意識できるように勤め、尊重した言葉使いなど、常に心掛けている。	職員は、目線を低くして丁寧な言葉掛けをしている。排泄で汚した便座なども、指摘したりせず、さり気ない対応をしている。利用者の嫌がることや誇りを損ねないように常に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や入浴時の服を選んだり、食事等食べたい物を選んでもらえるよう働き掛けている。朝食時間については、個々の起床時間に合わせて提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出(買い物)や外仕事、居室での趣味の時間等本人の希望に沿うよう時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用については、本人の意見を聞きながら提供している。日常的に化粧をしたり、衣服は自分で選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出掛け、台所にも入って調理している。味見をしてもらい、好みの味を提供している。一人ひとりが役割を持つことができるようにしている。	利用者も、食材の買い物から調理に関わり、それぞれが役割りを担っている。一緒に同じ食事を摂るのかは、職員の選択に任せている。訪問者にも、同じ食事(有料)を提供し、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取できるよう量や盛り付け方に考慮している。一日の水分摂取量を把握し、こまめに摂取できるようにしている。特養の管理栄養士に指導をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの介助方法を行っている。事業所内の研修会にも参加している。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、排泄パターンを把握し、個々に合った紙パンツやパッドへの変更を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、こまめにトイレへ誘導している。その結果、おむつから、紙パンツや軽いパッドに切り替り、自立が高まっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、水分摂取や食事に配慮している。主治医や看護師の指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴の実施。毎日入浴希望者には毎日提供している。30分の入浴時間を設け、ゆっくりと入浴していただけるようにしている。体調や気分等で入浴出来ない場合は、次の日に入ってもらっている。	一日おきに入浴できるが、希望者には、毎日でも入れるようにしている。季節の薬草や、地元特産の茶湯で温泉気分を味わっている。ゆったり時間を掛け、介助者と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に会った時間に対応している。照明や室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助した職員は誤薬防止のため、日付等を確認し、記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方には調理を、手芸を趣味にしている方には、材料に調達のための外出、新聞を読む方には毎日提供し、読み聞かせもしている。草取りの好きな方には、付き添って一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	姉妹に会いに行く援助や日々草取り等に行きたい方には、その都度付き添えるよう体制を取り、援助している。ボランティアや家族の協力を得て、花見や夏まつりに参加している。	母体の特別養護老人ホームまで(約200m)のごみ出しや食材の受け取りなどで、日常的に出かけている。町の中心部にある商店へは、職員と定期的に出かけている。普段行けない所へは、家族やボランティアの協力を得て、出掛けている。	

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や日常品の購入が自分でできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や家族への手紙も書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分達で掃除をしたり、写真を掲示したり、季節の花を飾っている。花は入居者が採ってきたものも飾るようにしている。	全体に、木のぬくもりが感じられる空間になっている。日中は、居間のテーブルや畳のコーナーで自由に過ごしている。1人になりたいときのソファもある。虫簾からキリギリスの音が流れている。窓越しに竹林を眺めながら、落ち着いた環境の中で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室といったように個々が自由に過ごせる空間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持って来ていただいている。家族と本人とで、使いやすいよう配置してみえる。ドレッサーの前で毎日化粧をしてみえる。	居室には、アルバムや日記帳、自作の習字や俳句など、馴染みの物が配置してある。孫から送られた誕生日の贈り物や、伴侶が描いた絵も自慢である。備え付けの鏡台で、毎朝化粧し、安らかに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配置換えはできるだけ行わないようにし、混乱をさけるようにしている。		